

ブレインワークス

中堅向け事業強化

情報公開 HRM最新版投入 機能など拡張

ブレインワークス(東京都品川区、竹内英昭社長、03・6713・9000)は、人事給与(HRM)パッケージの新製品投入をテコに、中堅企業向け事業を強化する。従業員への情報公開機能などを拡張したHRMパッケージの最新版を発売するのに加え、内部統制対応ニーズに応える就労管理のオプションも追加。従来のHRM機能のほか、人材育成やコンプライアンス(法令順守)強化の支援ツールとしても積極的に提案していく。

HRMパッケージ最新版「スタッフブレインVer9.0」では、従業員に公開する情報を拡充。上司が部下の技術レベルや評価・経歴などを閲覧できるように、部下の育成計画策定や人材配置の最適化を支援するツールとして利用が見込める。また、各従業員は給与明細や社会保険改定通知書といった各種通知書を閲覧でき、人事部などに問い合わせる手間が省ける。

今回、コンプライアンス関連機能も強化した。残業時間が規定を超える

可能性がある従業員の可能性がある従業員のチェックリストを上司や本人が見られる機能を付加。規定を超えそうな従業員を色分け表示して視覚的に通知するなど、事前警告機能を実装する。

パッケージのライセンス価格は400万円から。09年3月までに人事、給与の両システム合わせて100万の販売を目指す。

最新版と同時に、就業

管理オプション「就業ワークフロー」も発売。勤務実績の入力や時間外勤務の申請・承認を「スタッフブレイン」を通じて管理することで、勤務情報をリアルタイムに把握できる。操作や監査のログ(履歴)をとる機能を付加。これにより、中堅企業でも需要拡大が見込まれる内部統制に対応する。ライセンス価格は150万円から。

※本記事の著作権は日刊工業新聞社に帰属します。
※転載承認番号：N-3414